

多様な地域の実情に合った ITS の社会実装を考える ～ 現場の実情・実例から学ぶ ～

〔ご報告〕

ITS Japanでは『第3期中期計画（2016～2020年度）』*の『多様な地域の実情に合ったITSの社会実装』の具体化に向けて、基礎自治体や地域ごとのITS推進団体等との連携強化を図りつつ、『現場を知る』ことを活動の重点に据え、地域の課題や先進的な取組み、事例について、現地訪問や関係者との意見交換を中心とした活動を進めています。

(※ITS Japan第3期中期計画 http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_210/)

第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム in 熊本 参加報告

8月9～10日、熊本市で、（一財）地域公共交通総合研究所主催の『第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム』が開催されました。（一財）地域公共交通総合研究所の小嶋理事長、多野 熊本市副市長の挨拶の後、以下の講演、パネルディスカッションがありました。

■講演1：熊本大学 溝上教授

テーマ：地域公共交通の再デザイン 熊本市の挑戦とその成果

- ・熊本市公共交通の現状分析、再生への取組みと成果などが報告され、さらに最近の新しい取組みとして、①共通バスロケシステム（バスきたくまさんの開始）、②熊本都市圏における運行システムのナンバリング、③バス停付近のコンビニと協働した「バス待ち処」を開始、などの報告があった。
- ・今後は、熊本県内全域のバス路線網を対象に、あるべきバス路線網、利便性向上のためのサービス等を実現する運営方式を検討する『新バスのあり方検討会』を発足する。



■講演2：広島大学 藤原教授

テーマ：災害時の地域交通マネジメント

- ・主に、昨年の西日本豪雨災害直後の地域交通確保への取組み内容が報告された。
- ・災害発生後、中国、関西、九州から運転手付きでバスを集めて移動の足を確保、簡易バスロケ設置による運行情報を提供した。
- ・警察、高速会社等関係者との協働により、災害時BRT（臨時急行バス）を運行（一部復旧した高速道をUターンして利用、一般道に簡易バスレーンを構築、運用）した。



- ・通勤交通強靱化訓練（公共交通利用、マイカー時差出勤、相乗り、テレワーク）をやってみたところ、公共交通利用の増加、市内の渋滞減少など人々の行動変容が見えた。

■講演3：国土交通省総合政策局交通政策課 杉田課長補佐

テーマ：地域公共交通のイノベーションに向けて

- ・地域公共交通網形成計画の策定地域で、複数事業者が存在する地域は約4割あり、このような地域では、具体的な施策が進まない。（事業者間調整の難しさ）
- ・複数事業者のいる地域での運賃・料金、ダイヤ、路線再編等の連携・協働においては、独占禁止法のカルテル規制に抵触する恐れがあり、国交省では独占禁止法の適用除外を図り、事業者や事業者にとって明確な枠組みを整備するため、次期通常国会で特例法を提出する。
- ・国交省が考える日本版MaaSとは、①MaaSの相互連携による『ユニバーサルなMaaS』、②移動と移動以外のサービスを連携する『高付加価値MaaS』、③交通結節点の整備等まちづくりと連携したMaaS、と考えている。

「日本版MaaS」の実現に向けて（新モビリティサービス懇話会中間とりまとめの概要）		
事業者間のデータ連携	運賃・料金の柔軟化、キャッシュレス化	まちづくり・インフラ整備との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○連携データの範囲及びルール整備 ○データ形式の標準化 ○API仕様の標準化・設定 ○データプラットフォームの実現 ○災害時の情報提供等データの公益的利用 <small>API: 数社からシステム間の連携やデータ連携を実現するための標準方式</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○サブスクリプション(定額制) ○事前確定運賃 ○ダイナミックプライシング ○現時点のMaaSに関する法制上の整理 ○MaaSの展開を見据えた制度のあり方の検討 ○決済について 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市・交通政策との整合化 ○多様なモード間の交通結節点の整備(拠点形成) ○新型輸送サービスに対応した走行空間の整備(ネットワーク形成) ○まちづくり計画への移動データの活用
新型輸送サービスの推進		その他の取組
<ul style="list-style-type: none"> ○実証実験 ○自動運転によるサービスの提供の拡大 		<ul style="list-style-type: none"> ○競争政策の見直し ○人材育成 ○国際協調
⇒ 「大都市」「大都市近郊」「地方都市」「地方郊外・過疎地」「観光地」の類型ごとに推進 18		

■パネルディスカッション

以下のパネリスト、コーディネーターにより、公共交通の現状、問題提起、公共交通の未来について、パネルディスカッションが進められました。

- パネリスト：政策研究大学大学院 家田教授
 熊本都市バス 高田社長
 地域公共交通総合研究所 小嶋理事長
 湯布院玉の湯 桑野社長
 国土交通省九州地方整備局 前沸道路部長
 東京大学生産技術研究所 伊藤特任講師
- コーディネーター：岡山大学 三村教授



第6回地域公共交通総合研究所シンポジウムの講演資料ならびに危機的な地域公共交通の持続可能な発展への提言については、（一財）地域公共交通総合研究所のHPで公開されていますので、ご参照ください。（<http://chikoken.org/>）